

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 23 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2013

課題番号：21242025

研究課題名(和文) 中・近世ヨーロッパにおけるコミュニケーションと紛争・秩序

研究課題名(英文) Communication, Conflicts and Order in Medieval and Early Modern Europe

研究代表者

服部 良久 (Hattori, Yoshihisa)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：80122365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 35,900,000円、(間接経費) 10,770,000円

研究成果の概要(和文)：23人の研究分担者が国内外の研究協力者と共に、中・近世ヨーロッパのほぼ全域にわたり、帝国、王国、領邦、都市と都市国家、地方(農村)共同体、教会組織における、紛争と紛争解決を重要な局面とするコミュニケーションのプロセスを、そうした領域・組織・政治体の統合・秩序と不可分の、あるいは相互関係にある事象として比較しつつ明らかにした。ここで扱ったコミュニケーションとは、紛争当事者の和解交渉から、君主宮廷や都市空間における儀礼的、象徴的な行為による合意形成やアイデンティティ形成など、様々なメディアを用いたインタラクティブな行為を包括している。

研究成果の概要(英文)：23 scholars and some collaborators from Europe studied the various communication process in empire, kingdoms, principalities, cities and city states, local communities, and ecclesiastical organization in late medieval and early modern Europe from comparative viewpoint, focusing on conflicts and conflict resolutions. These studies covered almost all the parts of Europe, and clarified that such communication process was correlated with the integration and order of the concerned polities and communities.

The conception of communication in this research project refers to various interactive behavior, such as negotiation for settlement, ritual and symbolic performance for making consensus in the court of princes and building collective identity in the public space of the city.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：西洋史

キーワード：中・近世 ヨーロッパ コミュニケーション 紛争 秩序 儀礼 国家 都市

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 欧米における1980年代の法人類学の紛争研究の影響下に、ヨーロッパ中・近世史において紛争をテーマとする研究が盛んになると同時に、90年代からはドイツを中心にコミュニケーションを鍵概念とするプロジェクトや論集が多数現れた。

(2) 研究代表者はこうした欧米、とくにドイツの研究プロジェクトに参加し、個人でも中世ドイツの政治秩序を、国王、貴族、諸侯の紛争と紛争解決、国王宮廷における儀礼や象徴的行為をともなう合意と政治的意志形成のコミュニケーション・プロセスとして捉えようとする研究を進めた(基盤研究C、H.18-20年)。そのなかで紛争と紛争解決をも含むコミュニケーション・プロセスと秩序のインタラクティブな関係を捉える研究を、ヨーロッパ全体に広げ、様々な歴史領域で比較考察することが有益と考えるに至り、科研最終年度の前年度に本科研による共同研究へと再編成した。

## 2. 研究の目的

(1) 中・近世のヨーロッパ各地域において、様々なコミュニティや政治組織・領域(帝国、王国、領邦、都市と都市国家、農村共同体、教会組織など)におけるコミュニケーションの実態(メディア、プロセス、参加者、影響)を実証的に考察し、そうしたコミュニケーションが、各地域の政治体、組織、共同体の秩序と密接な相互関係にあったことを明らかにする。

(2) そのようなコミュニケーションの事例としては、様々な社会レベルでの紛争と紛争解決におけるインタラクティブな、また象徴的な行為、そして国王・諸侯宮廷、都市空間における儀礼やセレモニーなど、言語・非言語的、身体的メディアを用いたパフォーマンスな行為が重要な意味を持っていたことを重視する。

## 3. 研究の方法

(1) 国家・社会・共同体の日常的な秩序を支えるコミュニケーションの諸形態、(2) 紛争と紛争解決におけるコミュニケーション、の両局面を念頭に置きつつ、主に次の四点を重点的な考察対象とする。国家の統合に関わる君主宮廷における政治的コミュニケーション、中・近世の国家内の、そして国家を跨ぐ様々な中間団体(都市・地域)の自律性やアイデンティティの基盤となるコミュニケーション、教会における紛争とコミュニケーション、コミュニティとマイノリティ。

(2) 英・仏・独・伊・東欧・北欧・ビザンツ史の専門研究者に研究分担を依頼し、また類似のテーマでヨーロッパ最大のプロジェクトを指導してきたミュンスター大学のG・アルトホーフ、B・シュトルベルク・リリング

一、ミラノ大学のG・キットリーニの3人を研究協力者として助言を受ける。

## 4. 研究成果

(1) 本研究は、年2回の全員が出席する研究会の他、2011年度末にはヨーロッパの研究協力者3人を招聘して国際シンポジウムを行った。また2014年3月には本科研とトレントのイタリア史・ドイツ史研究所の共催で研究集会「中世後期・近世のアルプスにおける共同体と紛争」を開催、代表者と分担者、協力者4人が発表を行った。前者の成果はPolitical Order and Forms of Communication in Medieval and Early Modern Europe, Y. Hattori (ed.), Rome 2014として刊行し、後者の成果もトレントの研究所から論集として刊行予定である。この他、数回の外国人研究者を招聘しての講演会を持ち、また研究代表がミラノ大学、ミュンスター大学で講演会、ワークショップを企画し、さらに分担者がリーズの国際中世学会でセッションを組んだ。

(2) 最終成果は以下のように総括され、今年度中に論文集として刊行する。

宮廷におけるコミュニケーションと政治秩序  
中世の宮廷は「君主とともに移動する宮廷」と「首都に固定された宮廷」に類型化されるが、「移動」「固定」は相対的な区分でもある。ドイツ国王は中世を通じて「巡行統治」を続けたが、中世盛期以後の英仏国王も首都宮廷(宮殿)に留まって王国を統治したわけではなく、首都コンスタンティノーブルが圧倒的な中心地機能を帯びるビザンツ帝国の皇帝も同様であった。中世の支配者(国王・皇帝)は自身の身体をメディアとして、移動と各地域でのプレゼンスによりコミュニケーションを行っていた。その要点を記せば、各々の宮廷集会における国王と有力貴族、諸侯の直接的な接触、パーソナルなコミュニケーションの王国統合(政治秩序維持)における機能は、折々の集会開催地、参集した貴族と、合意事項が記された国王証書の内容からわかる。さらに年代記等を用いることにより、宮廷集会以前のインフォーマルな交渉により当事者間の合意が成立し、宮廷でその結果を公にする事例も稀ではない。また宮廷内外のコミュニケーションにおいては、オーラル、文書、儀礼、祝祭など言語、非言語のメディアが複合して重要な役割を果たしていた。宮廷は合議と決定の場である以上に、有力者たちの交わりの場であり、合意をデモンストレーションする劇場空間でもあった。他方で帝都コンスタンティノーブルと宮廷はしばしば争いの場でもあったが、その際にも反乱軍の城外待機、内部での政変発生、現職皇帝失脚、

退位という定型化されたコミュニケーション・プロセスが見られた。

地域の紛争・紛争解決と国家（都市国家・王国・帝国）の秩序形成

中・近世ヨーロッパ諸国においては村落共同体、大小の政治的領域、都市、同盟などの中間団体や下位組織が、国家権力に対して一定の自律性を持ち、独自の慣習により秩序を維持していた。自治と自律的秩序（平和）維持は表裏一体であった。中・近世ヨーロッパの各地域における多様な政治と社会の枠組み（王国、領邦、都市、農村、およびこれらの同盟・ネットワーク、その他の地域共同体）や上位権力への帰属関係はなお流動的で固定化されず、当該地域の自立的秩序維持能力や、これを支えるコミュニケーションの実態に規定されていた。具体的には、広域的、そして地域（共同体）的な社会のレベルで生じる紛争と紛争解決の繰返し、当該社会の秩序規範にも影響を与え、またそのような紛争を含み込んだ秩序維持慣行が機能不全に陥った場合、あらたな広域的政治秩序への再編が進んだ（ボルドーとイングランド王権、アイスランドとノルウェイ王権など）。複合的国家、連邦国家的な性格を強める近世神聖ローマ帝国における帝国裁判の、地域間結合機能、あるいは広域的秩序化機能も、政治的コミュニケーションと秩序のインタラクティブな関係を示している。また近年、政治的秩序構築への貢献が評価されているイタリアの党派については、ミラノのヴィスコンティ国家形成期における地域の党派が、地域と中央間のコミュニケーション回路として機能し、ミラノ、地方中心都市、農村部を結びつける人的ネットワークとして、国家の緩やかな人的統合を促していたことを明らかにした。

都市共同体のアイデンティティと都市間コミュニケーション・秩序

中世中期以降、都市はコミュニケーションの結節点となり、商業ネットワーク維持・水陸通商路のコントロールは、都市間、諸勢力間の紛争の際に争点となった。北中部イタリアにおいてヴェネツィアが関わる紛争の考察からは、制裁手段としての「通商停止」が、紛争解決をも導くコミュニケーション回路として用いられ、そうした経済的手段と武力手段・外交交渉は密接な関係を有していたことが明らかにされた。また通行権はより広い地域を結びつけるコミュニケーションに関わる法的権利であるため、上位権力が諸都市の特権の一元的な管理を企てると紛争、対立の要因となる。パボーム通過税を巡る王権と北仏都市の断続的紛争の考察からは、経済・流通に

おける紛争的コミュニケーション世界の一端が明らかになる。都市共同体内の秩序については、16世紀にリヨネ地方の地方総督や総代官職を占めたイタリア都市出身者を取り上げ、彼らがリヨンで出身都市ごとに形成した自治組織的な「結社」=同郷団と都市社会との紛争・コミュニケーション、市参事会との関係が明らかにされた。また都市内のさまざまな集団、あるいは外来の諸勢力間のコミュニケーションの場として機能する公共空間は、紛争を表象する場でもある。例えばイタリアのポローニャでは党派争いが激しく、都市支配権も独自の僭主（シニョーレ）、教皇権、ミラノのヴィスコンティ勢力などが入れ替わったが、その都市景観の変遷は、この都市が経験してきた紛争のなかでの自らのアイデンティティ形成とその表象を映し出す。そして14世紀末から、有力家門権力を象徴する建物が大学や劇場に姿を変え、都市内のコミュニケーションがモニュメントとして結実することが明らかにされた。

教会のあるべき秩序をめくって

ここではローマ・カトリック教会の普遍的なヒエラルヒーを基盤とする組織とコミュニケーション網が13世紀以後動揺するなかで、正統信仰の確立とこれに齟齬する異端の創出、地方伝統との調整、教皇・教会権力の政治的利用、教会分裂を回避しようとする議論などの問題が展開した。そこに教会・政治・社会が相互に作用する広義のコミュニケーション・プロセスを見ることができる。普遍的なヒエラルヒー形成期における問題からは、まず、フランス北部の13世紀における司教巡察という新しいコミュニケーションの回路に着目することにより、地方教会統治のありようの変化を明らかにした。南仏のカタリ派異端の審問記録からは、異端審問官と在地住民との法廷内外のコミュニケーションの諸相が、暴力、抑圧、抵抗、論争、説得、交渉などの局面について明らかにされた。また異端審問から普遍的なヒエラルヒー秩序の理想と在地住民の現実社会とのズレが析出され、変容する地域社会における紛争とコミュニケーションのあり方についても光が当てられた。ブルゴーニュ公国の政治秩序については、君主と有力都市・市民の対立的関係ばかりが強調されてきたが、君主によるその一族の都市への司教任命に着目することにより、教会と宗教を新たな統治ファクターに加えた政治的コミュニケーションの一面が明らかにされた。宗教改革期の信仰問題では、その最終的解決策とされた教会公会議が機能不全に陥ると、帝国議会や種々の集会による討議など代替の方

策が模索された。その中で軍事衝突を経てやがて、信仰問題の解決策と国内平和との分離が図られるようになった。こうした交渉過程から普遍的ヒエラルヒーという教会理念の変化が読み取れるのである。

マイノリティ・他者とコミュニケーション・秩序

ここでは異文化接触地域におけるコミュニケーションの諸形態を扱った。クレタ島におけるギリシア系住民とヴェネツィア植民者の関係は「分離的共生」と呼びうるが、首府カンディアの民事法廷訴訟記録から、両者のパートナーシップ、友人関係、雇用関係、及びその破綻に際して、どのようにコミュニケーションが展開したのかを、より具体的に示した。12世紀の聖地国家(エルサレム王国)では少数支配者層である「フランク人」たちは、圧倒的大多数のムスリムに対して在地の支配システムを踏襲して安定をはかったが、では王国をめぐる政情が激変する13世紀において、従来のフランク人とムスリムの政治的、社会的コミュニケーションはどのようであったのかについて、多面的な考察を加えた。14世紀のルクセンブルク家支配下のチェコ王国における貴族共同体の政治的発展と、「外国人」とされるドイツ人貴族との対立は、チェコの国政に参加する貴族「共同体」を構成する家門にはドイツ系出自の家系も含まれ、その中にはチェコ貴族と婚姻関係を結び、反国王蜂起にも加わった家系も見出されることから、貴族のエスニシティに規定された政治的共同体としてのコミュニケーションとアイデンティティに基づくものではなかったことを確認し、そのような貴族共同体のアイデンティティを促した政治的コミュニケーションのプロセスを明らかにした。

以上のようなコミュニケーションを軸とする研究成果により、中・近世ヨーロッパ史への新しい有益なアプローチを示すことはできたが、これを総合して新たなヨーロッパ史像を構築するには、いまだ研究の蓄積が必要であろう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 38 件)

青谷秀紀、12世紀フランドルの修道院説教史料と歴史的アイデンティティ、駿台史学、査読有、151、2014、23-52

朝治啓三、帝国で読み解く中世西欧カトリック世界の構造 神聖ローマ帝国、フランス

王国、アンジュー帝国 -、西洋史学、査読有、249、2013、20-32

櫻井康人、マルシリオ・ゾルジの『報告書』に見るフランク人の現地人支配、史潮、査読有、新74、2013、4-22

図師宣忠、一三世紀都市トゥールーズにおける「異端」の抑圧と文書利用 王権・都市・異端審問の対立と交渉の諸相、史林、査読有、95-1、2012、74-109

中堀博司、ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第二遺言書(1441年) 前編、宮崎大学教育文化学部紀要(社会科学)、査読無、26・27、2012、21-38

山辺規子、中世ヨーロッパの健康のための事物性格表、奈良女子大学大学院人間文化研究科年報、査読有、27、2012、203-216

服部良久、フリードリヒ1世・バルバロッサの宮廷とコミュニケーション、京都大学文学部研究紀要、査読無、50号、2011、201-249

青谷秀紀、赦しのポリティクス - 中世後期ネーデルラント都市の贖宥とブルゴーニュ公 -、清泉女子大学紀要、査読有、59、2011、21-35

小林功、7世紀のテマと小アジア~ビザンツ国家の再生~、歴史学研究、査読無、880、2011、2-11

櫻井康人、12世紀エルサレム王国におけるフランク人とムスリムの政治的コミュニケーション、歴史学研究、査読有、885、2011、148-157

田中俊之、中世末期スイス北西部のラント裁判におけるコミュニケーション、比較都市史研究、査読有、30-1、2011、27-43

Kenji Nishioka, St Kentigern and the Isle of Britain: Scotland and Britain viewed from Glasgow in the twelfth century, Haskins Society Journal Japan, 査読有、4、2011、33-38

服部良久、初期シュタウフェン朝時代の紛争解決と政治秩序、京都大学文学部研究紀要、査読無、49、2010、187-290

青谷秀紀、プロセッションと市民的信仰の世界 南ネーデルラントを中心に、西洋中世研究、査読有、2、2010、36-49

小林功、フォーカスとデーモス、古代文化、査読有、62-3、2010、107-113

櫻井康人、12世紀エルサレム王国における農村世界の変容 「ナプルス逃亡事件」の背景、ヨーロッパ文化史研究、査読有、11、2010、181-215

朝治敬三、シモン・ド・モンフォールのガスコニュ統治、史林、査読有、92-5、2009、34-65

根津由喜夫、10世紀コンスタンティノープルのアラブ人、ヨーロッパ文化史研究、査読有、10、2009、1-30

〔学会発表〕(計 65 件)

Yoshihisa Hattori, Community, Communication and State in the Late Medieval Alpine Region: A Survey from Comparative Viewpoint, Alpine communities and conflicts from late Middle Ages to early Modernity / Final conference, Fondazione Bruno Kessler, Istituto Storico Italo-Germanico, Trento, 2014/3/27

田中俊之、15世紀スイス北西部のラント裁判と在地貴族、第81回京都大学西洋史読書会大会、京都大学、2013/11/3

Hideki Aotani, Mechelen's Jubilee Indulgence and 'Pardon' in Burgundian Political Culture, Medieval Identities: Political, Social and Religious Aspects. The Eighth Japanese-Korean Symposium on Medieval History of Europe, Keio University, 2013/8/21

朝治啓三、1259年パリ条約以後王子エドワードのボルドー政策 領有者プランタジネット家と都市コミュニティのコミュニケーション、日本西洋史学会63回大会小シンポジウム「中世ヨーロッパにおける政治的コミュニケーションと秩序」、京都大学、2013/5/12

山辺規子、1530年ボローニャにおける皇帝カール5世の戴冠式、京都大学西洋史読書会大会、京都大学、2012/11/3

Nobutada Zushi, Negotiations and the Use of Documents in 13th-Century Toulouse, International Medieval Congress, University of Leeds, 2012/7/10

Kotaro Todoroki, Preuves en justice et liens d'amitié ou de fidélité dans l'ouest de la France aux XIe et XIIe siècles, 19th International Medieval Congress, University of Leeds, 2012/7/10

Atsuko Nakamura, Anglo-Norman kings and the 'renewal' of charters- examples from

the History of Abingdon Abbey, 19th Leeds International Medieval Congress, Leeds University, 2012/7/10

Akira Shibutani, Friedensbildung und Reichstage im Alten Reich, Symposium "Dimensionen des Friedens im frühneuzeitlichen Europa", Institut für Europäische Kulturgeschichte, Universität Augsburg, 2009/11/10-11

櫻井康人、フランク人支配下のムスリム『聖地のシャイフたちの奇跡的な行い』を中心に、第77回京都大学西洋史読書会大会、京都大学、2009/11/3

高田京比子、14世紀イタリアにおける都市貴族のアイデンティティ ヴェネツィアを中心に、第77回京都大学西洋史読書会大会、京都大学、2009/11/3

根津由喜夫、11世紀コンスタンティノープルの都市騒乱 皇帝改廃劇のシナリオ、日本西洋史学会第59回大会、専修大学、2009/6/14

〔図書〕(計 45 件)

Yoshihisa Hattori (ed.), Taku Minagawa, Atsuko Nakamura, Hideki Aotani, Nobutada Zushi, Keiko Takada, Kotaro Todoroki, et al., *viella*, Political Order and Forms of Communication in Medieval and Early Modern Europe, 2014, 249

藤井真生、昭和堂、中世チェコ国家の誕生 君主、貴族、共同体、2014、357

皆川卓 他、ミネルヴァ書房、中近世ヨーロッパの宗教と政治、2014、253-274

小林功 他、昭和堂、ビザンツ-交流と共生の千年帝国-、2013、47-70

櫻井康人 他、勉誠出版、ヨーロッパ・グローバリゼーションの歴史的位相、2013、152-162

朝治啓三 共編、創元社、中世英仏関係史 1066-1500 - ノルマン征服から百年戦争終結まで、2012、327

根津由喜夫、世界思想社、ビザンツ貴族と皇帝政権 コムネノス朝支配体制の成立過程、2012、515

山辺規子 他、ミネルヴァ書房、15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史、2012、230-253

青谷秀紀、京都大学学術出版会、記憶のなかのベルギー中世 歴史叙述にみる領邦アイデンティティの生成、2011、334

轟木広太郎、昭和堂、戦うことと裁くこと 中世フランスの紛争・権力・真理、2011、368

根津由喜夫、河出書房新社、図説 ビザンツ帝国 刻印された千年の記憶、2011、123

服部良久 共編、高志書院、紛争史の現在 日本とヨーロッパ、2010、272

根津由喜夫、昭和堂、夢のなかのビザンティウム 中世西欧の「他者」認識、2009、373

渡邊伸 他、教文館、ヨーロッパ宗教改革の連携と断絶、2009、137-155

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://eh-kyoto.sakura.ne.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

服部 良久 (HATTORI, Yoshihisa)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：80122365

### (2) 研究分担者

青谷 秀紀 (AOTANI, Hideki)

明治大学・文学部・准教授

研究者番号：80403210

朝治 啓三 (ASAJI, Keizo)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70151024

小林 功 (KOBAYASHI, Isao)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：40313580

小山 啓子 (KOYAMA, Keiko)

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：60380698

櫻井 康人 (SAKURAI, Yasuto)

東北学院大学・文学部・教授

研究者番号：60382652

渋谷 聡 (SHIBUTANI, Akira)

島根大学・法文学部・教授

研究者番号：32073915

図師 宣忠 (ZUSHI, Nobutada)

近畿大学・文芸学部・講師

研究者番号：60515352

高田 京比子 (TAKADA, Keiko)

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：40283668

田中 俊之 (TANAKA, Toshiyuki)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：00303248

轟木 広太郎 (TODOROKI, Kotaro)

ノートルダム清心女子大学・文学部・准教授

研究者番号：60399061

中村 敦子 (NAKAMURA, Atsuko)

愛知学院大学・文学部・准教授

研究者番号：00413782

中堀 博司 (NAKAHORI, Hiroshi)

宮崎大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：90423518

西岡 健司 (NISHIOKA, Kenji)

大手前大学・総合文化学部・講師

研究者番号：70580439

根津 由喜夫 (NEZU, Yukio)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：50202247

藤井 真生 (FUJII, Masao)

静岡大学・人文社会・教育化学系・准教授

研究者番号：70531755

皆川 卓 (MINAGAWA, Taku)

山梨大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：90546492

山田 雅彦 (YAMADA, Masahiko)

京都女子大学・文学部・教授

研究者番号：90202382

山辺 規子 (YAMABE, Noriko)

奈良女子大学・人文科学系・教授

研究者番号：00174772

渡邊 伸 (WATANABE, Shinn)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号：70202413

高田 良太 (TAKADA, Ryota)

駒沢大学・文学部・講師

研究者番号：80632067